

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホーム開設時からの理念の考え方を大事にしなが ら、地域密着型サービス事業所としての新しい理念をつ くっている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議のメンバーの方よりアドバイスを 受け、職員全員でBS法による新しい理念作りに携わり、出来上がった 理念を、従来の分も併せて毎朝の申し送り時に唱和したり、 毎月の全体ミーティングの時に話し合うなどして、実践に向 けて日々取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に した理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んで いる</p>	<p>職員は、常に理念を念頭に置きながら日々の支援に 取り組むよう気をつけており、自然とご家族や地域の人々に理解 していただいている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、 気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるよ うに努めている</p>	<p>朝夕の挨拶をはじめ、花火大会などのグループホームでの 行事開催時には声をかけ、参加をお願いしている。日中は 入り口の門扉を開放しているため、ご近所の方が草花の苗 や不要となった軍手・ポリ袋を置いて下さったり、畑の耕作を して下さっている。</p>	<p>○ 庭や畑だけでなく、グループホームの中へ、気軽に入っ て来ていただけるような雰囲気づくりに取り組んでいき たい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、 老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流する ことに努めている</p>	<p>地域の防災訓練などの公民館の行事や、地域の小学校で の資源ゴミ回収などにすすんで参加し、地元の人たちと触れ 合う機会を持っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の行事やグループホームでの行事を通して、お互いの様子が分かり合えるよう努めている。	○	ご家族や地域の人たちにも参加を願って、啓発活動をしていく予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、また、外部評価の結果に基づいて、支援内容や日々のケアの振り返りに活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議開催時には運営状況を報告したり、メンバーの方より、実践に活かせるような情報をいただき、お互いに意見交換をする場となっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の運営推進会議への参加が中止となったため、共に取り組む機会が少なくなったが、記録の提出や介護保険の更新申請時などで訪れる機会を意識してつくるようにしている。	○	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターの方の協力を得ながら、市町村の方へ出向く機会を増やしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在までには必要な方がなかったため、特に学ぶ機会を持っていなかった。	○	成年後見制度については必要と思われる方があり、話し合ってみる予定にしている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加やグループでの勉強会で話し合い、虐待の防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約の申し出があったときには、ご本人やご家族と十分に話し合う時間を持ち、理解を得て納得いただけるように配慮している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者と職員が和気藹々と話ができる雰囲気づくりや声かけに努めている。また、わかりやすい場所へのご意見箱の設置や苦情相談に関するポスターの掲示などを行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別に面会時に話したり、電話や手紙によって行事への参加協力をお願いをしたり、ホーム便りを通して、ホーム内での生活や行事の様子、職員紹介などの報告をしている。	○ 担当職員がコメントを記入した個々の写真を送付した際には、遠くに住むご家族が大変喜んで下さったため、今後は毎月の利用料の明細書と領収書の送付の際などに、一緒に送る事ができるようにしていきたいと思っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や行事の時など、折に触れてこちらから声をかけ、ご希望やご意見をお伺いして話しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、玄関のわかりやすい場所にもご意見箱を設置し、外部への苦情相談窓口のポスターを掲示板に貼っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のケア会議と、毎月1回全員参加による全体ミーティングを開き、意見や提案を出し合うようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者やご家族の状況や要望に合わせた対応ができるよう、必要な時間帯に職員を配置できるように勤務の調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑えるよう努力し、やむを得ず離職者が出た場合には速やかに補充して利用者へのダメージを防いでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修からリーダー研修まで段階に応じた研修に参加している。また法人内外の研修にも積極的に参加し、毎月の全体ミーティングの場で発表し合うなど、資質の向上に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と一緒にバーベキュー大会を開いたり、外部の講師を招いてともに勉強会を開くなど、相互訪問やネットワークづくりを通じてサービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	自施設だけでなく、法人内の他の施設の職員と一緒に慰安旅行でのリフレッシュや、全体ミーティングの時にざっくばらんに話し合い、ストレスの軽減を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得を推奨し、向上心ややりがいを持って働けるよう努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった場合は、ご本人に面談させていただいたり、直接見学においていただき、十分お話を聞かせていただいた上で、納得して利用していただけるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人と同様ご家族からも十分話を聞かせていただき、安心して利用していただけるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたりご本人やご家族に会わせていただいた時、他のサービスが適切と思ったときには、その旨を伝え紹介等にも応じている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にご本人やご家族に見学に来ていただき、実際に生活している場所や、他の入居者や職員の様子を見ていただき、安心して徐々になじむ事ができるよう工夫している。短期利用を経て入居に至ることもある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔取った杵柄で、まだまだできることは多く、一緒に作業をする中から学ぶことは多い。上手にできたときは一緒に喜んで喜び合っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事参加時、お願いや連絡の電話のときなど、ご家族と連絡が取れる機会を多く作って、一緒に喜び、悩み、支えてゆくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に近況報告をさせていただいたり、行事参加のときは楽しい時間が持てるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたサービス事業所など、なじみの人が集まる場所へ参加して楽しい時間を持ったり、以前から利用している地域の美容院へ行き、昔話に花を咲かせたりして、関係が持続できるよう配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やレクリエーションなどの時には、利用者の中に入って一緒に過ごし、一人ひとりが孤立する事がないよう見守り、入居者同士の関係がうまくいくよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、行事にお誘いしたり、運営推進会議への出席をお願いするなど継続的な関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に希望、要望を聞かせていただいたり、日頃の何気ない会話の中から、意向の把握に努めている。また全体ミーティングでも担当者を中心に職員全体で話し合い、検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族やご本人の話の中から生歴や馴染みの暮らし、入居に至るまでの経過をよく聞かせていただくようにしている。また、日頃の言動からも全体像をつかむようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日頃の介護の中から生活のリズムをつかみ一日の過ごし方、心身の状態、残存能力など有する力の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望、希望を基に課題を話し合い、かかりつけ医や看護師の意見も取り入れた上で、入居者の意向に添った介護計画を作成。全体ミーティングの場で全員の意見も取り入れるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングやアセスメントを定期的実施して介護計画の見直しを行っているが、それ以前に見直しが必要な事柄が発生した時には、速やかに現状に即した計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成しており、バイタルチェック、一日の行動や気付きなど誰でも情報を共有出来るようにしている。介護計画の見直しにも大いに役立っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出外泊など、ご本人やご家族の状況や要望に応じて、個別に柔軟に対応している。短期入居サービスとして在宅の方への支援も始めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や小学生との交流、消防のご協力、ハワイアンなど踊りのボランティア等々、地域資源の支援をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者を入居以前に担当していた地域の他のケアマネジャーの意見をきかせていただいたり、通院に付き添っていただくなど支援を要請した。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、身近な指導者として教えていただいたり、ご意見やご協力をお願いしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の信頼しているかかりつけ医を、ご希望に応じて職員やご家族付き添いで受診していただき、納得していただいている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい専門医のいる病院を受診して、適切に診断が受けられるよう対応している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の健康状態や状況をよく知ってくれている協力病院の看護職員に、何でも気軽に相談し、日常の健康管理等の支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院したときには、頻繁にお見舞いに行き、担当医師や看護職員との情報交換を行っている。退院に向けての相談にも同様に対応し、ご本人やご家族の不安を軽減するよう配慮している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個別に、状態に合わせて話し合う時間を持つようになっている。	○	繰り返し話し合うことで、ご本人やご家族の意向を知り、方針を共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃から、入居者様やご家族が安心して過ごせるよう、「必要なこと・大切なこと」を考えながら、適切な支援ができるよう取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院に入院するときなどは十分な情報提供を行い、住み替えによるダメージを防ぐよう気をつけている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	高齢者に対する尊厳の気持ちを大事にして、言葉かけや対応を行うよう、職員全体で気をつけている。	○ いろいろな場面でのプライバシーの確保について、具体的に話し合い、適切な対応ができるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合わせた声かけや提供方法を考え、また、つぶやきや表情などからその人の思いを読み取りながら、自分で決めたり納得できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活のペースを大事にし、それぞれの体調や希望に合わせた柔軟な支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝の身だしなみや外出時のおしゃれなど、ご本人と話をしながら、その人らしくできるよう支援し、なじみのある美容院や訪問理容・美容を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作り、野菜の収穫、食材の仕分け、調理、配膳、後片付けなど、それぞれのできる力を活かしながら食事に携わり、入居者様と職員が一緒のテーブルで同じものをいただきながら、楽しい時間を過ごしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの状況や体調に合わせて、好みのものが楽しめるよう支援している。週に1度の“喫茶の日”には好みの飲み物を注文していただき、おやつを楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表や職員間での情報共有などにより、一人ひとりの力や排泄パターンを知り、声かけや誘導をして、失敗を減らし、気持ちよく過ごせるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせ、また、安心して入浴ができるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの生活パターンを知り、また状況や体調に応じた支援を心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの「したいこと・できること」を知り、達成感や満足感を味わう事ができるよう支援している。	○	今以上に張り合いや喜びのある日々を過ごしていただけるよう一人ひとりの思いをつかんでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて、お金を所持したり、買い物に出かけた際に使ったりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ・買い物・他施設での催し物など、一人ひとりのその日、その時の希望に添って、外出支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中から、一人ひとりが行ってみたい場所や懐かしい場所をつかみ、行事やご家族との外出支援に役立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など季節のお便りを出すために、ハガキやペンを用意し内容のアドバイスをしたり、希望に添って、電話の取次ぎや本人が所持している携帯電話の使用法の指導を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会には時間を設けず、いつ、誰が来ていただいても、気持ちよく過ごせるように、気をつけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに関する勉強会に参加し、学んだことを職員全員が共有してケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間や特別な事情のあるときを除いては、鍵をかけないようにしている。やむを得ず使用する場合には、十分なケアを行い、できるだけ早く使用しない状況を作るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	業務を遂行しながらも、常に入居者様全員の状況や状態を把握するよう意識しており、夜間は一人ひとりの動きがよくわかる場所で記録等を行い、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、適切な方法で使用していただけるよう管理・保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、適切な対処法を職員間で共有できるよう、ヒヤリハットや事故報告書を活用し、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者様の急変や事故発生時に、適切に対応できるようなマニュアルを用意し、お互いに確認しあうようにしている。	○	関係者に指導を仰ぎ、応急手当や初期対応の訓練を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、定期的に火災避難訓練を行い、入居者さまも訓練の必要性を感じてくださっている。消防署の協力を得た防災訓練時には、ご近所や地域の方、運営推進会議のメンバー等の協力をいただき、意義のあるものとなっている。	○	消防署の指導をいただきながら、いろいろな災害に対する、適切な対処法を学びたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状態を把握し、ご家族とともに情報を共有して、リスクについても説明し、ご本人にとって一番よい暮らしが提供できるよう話し合うようにしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行うことで普段の状態を把握し、排泄や入浴等の介助時や日中の過ごし方によって、状態の変化や異常に速やかに気づき、対応に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、高齢者の薬の管理の大切さを理解しており、個々の説明書により把握するよう心がけている。薬の変更があるときには、細やかな状態観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立には、豆類や野菜・海草を多く取り入れ、水分補給に努めている。毎朝の体操や歩行訓練、散歩などで身体を動かすことを勧めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎週、歯科衛生士による口腔衛生指導を受け、清潔に気をつけている。食後には一人ひとりの状態に応じた支援をし、気持ちよく過ごしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が作成した献立を参考にしながら、ホーム独自の献立により、栄養や水分の摂取に気を配っている。一人ひとりの状態に応じた支援ができるよう、記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがい・消毒をはじめ、インフルエンザの予防接種を入居者様、職員が毎年受け、予防に努めている。また、感染症の予防や対応について、機会があるごとに職員間で話し合い実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	魚・肉・野菜など、新鮮で安全な食材を毎日届けてもらい、新鮮な内に使っている。調理器具・冷蔵庫などの消毒や衛生管理にも気を配っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は門扉を開放し、地域の方が持ってきてくれる花や気軽に摘める花、ゴーヤなどの話題のものを植え、ベンチを置いて、親しみやすい雰囲気づくりを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレ、リビングには季節を感じられるような花や飾りを置き、明るく日当たりのよいリビングでは、食事作りの音やにおいで、温かく、ゆったりと過ごしていただけるよう気をつけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナーや、リビングや廊下のあちらこちらに配置したソファで、ゆったりとひとりで、また気の合った者同士で居心地よく過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、タンスやベッド、テレビ、椅子、鏡台など、使い慣れた家具を持ってきてもらい、ご本人が安心して過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝一度は全室の窓を開け放して換気をし、新鮮な空気を取り入れさわやかに過ごしていただけるよう配慮している。居室ごとの空調設備で、その人に合った温度調節をしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーにできており、廊下・トイレ・浴室には手すりを設置して、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様一人ひとりのわかる力・できる力を把握し、それぞれに合った方法での最小限の介助で、できるだけ自立した生活を送っていただけるよう心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日には、ベランダで散歩をしたり、玄関先の花壇で花苗を植えたり、南奥の畑で野菜の収穫をして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様と、生活のパートナーとして過ごしたいと考えています。ひとつの家庭として、食事作りの動きや音、においが間近で感じられたり、その横では新聞を読んだり、洗濯物をたたんだり……といった日常の生活を、今までのままグループホームで送っていただきたいと思っています。

また、入居者様のそばに寄り、一人ひとりの話を聞き、じっくりと向き合うよう心がけています。

入居者様が、毎日笑顔で安心して過ごせるよう、職員も元気な笑顔を忘れないよう気をつけています。